

【論点-1】 防潮堤ルート変更後の敷地に遡上する津波の浸水深及び流速

1. 概要

防潮堤ルート変更後の敷地に遡上する津波の浸水深及び流速を遡上解析にて確認する。

2. 確認事項

防潮堤ルート変更後の敷地モデルにて遡上解析を実施し、最大浸水深及び最大流速を確認する。

3. 確認結果

防潮堤ルート変更後の解析結果は表1に示すとおりであり、浸水防止設備等の設計で考慮する浸水深1.0m及び流速2.0m/sの設定を変更する必要がないことを確認した。

敷地モデルに東海発電所建屋を反映した追加解析も実施し、東海発電所建屋が存在したとしても東二原子炉建屋周辺に局所的な水位上昇がないことを確認した。



図1 防潮堤ルート変更後の浸水深分布図

表1 防潮堤ルート変更後の最大浸水深、最大流速一覧表
(東海発電所建屋のない場合)

施設・設備	最大浸水深 [m]	最大流速 <東西方向> [m/s]	最大流速 <南北方向> [m/s]
①原子炉建屋	0.43	+0.07	-0.96
②緊急用海水ポンプピット	0.22	-0.39	+0.04
③格納容器圧力逃がし装置格納槽	0.50	+0.32	-1.28

(数値のプラス、マイナスは流向を示す)

東海発電所建屋モデルの追加に伴う局所的浸水深の上昇有無

[浸水深]

- 原子炉建屋南側エリアにおいて浸水深の局所的な上昇は認められなかった。

追加した東海発電所建屋は、原子炉建屋南側エリアから見ると、津波の流入方向の上流側に存在することから、津波の影響が緩和される結果が得られている。

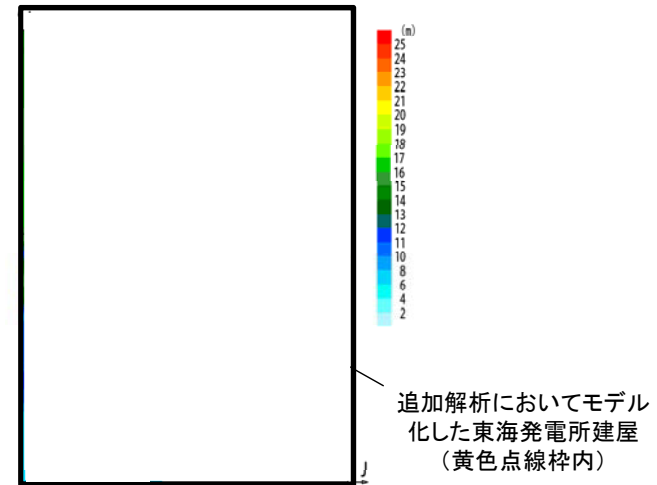


図2 防潮堤ルート変更後の浸水深分布図(広域)

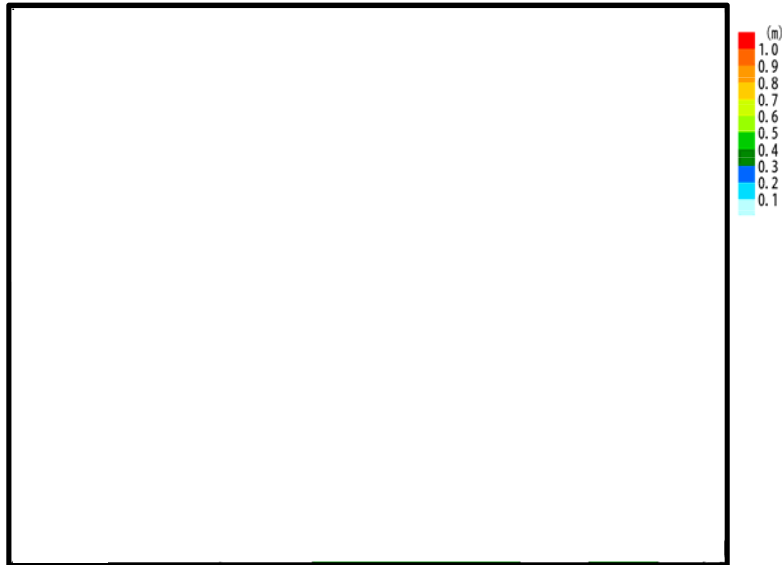


図3 防潮堤ルート変更後の浸水深分布拡大図 (東一なしモデル)



図4 防潮堤ルート変更後の浸水深分布拡大図 (東一追加モデル)